

第8回前橋市地域公共交通再生協議会 意見照会結果

【資料1-1】 都心幹線検討状況について

意見内容
・中央前橋駅のロータリー整備にあたっては、自動運転バスをはじめ、多くのバスが乗り入れできるよう設計してほしい。
・千代田三丁目交差点改良に向けた検討について、同時間帯は主道路である国道18号も渋滞しており、立川町通りのみの原因調査に限らず、付近交差点など渋滞状況も考慮した調査が必要と考えられる。

【資料1-2】 シャトルバスのけやきウォーク前橋延伸運行について

意見内容
・今後の予定に関して、 (1) 平日も、けやきウォーク前橋までの延伸を、まず実証実験としてすすめてほしい。 (2) ①平日のけやきウォーク前橋までの延伸、②県庁・前橋公園方面への延伸は方向が異なるので、ルートの設定が課題となるのではないか。 ・1本おきでは利便性の低下となるのではないか。

【資料1-3】 自動運転バスの実証実験結果について

意見内容
・令和元年度実験内容について、マイナンバーカードによる乗客管理とは、どのような管理を行うのでしょうか。 (事務局回答)：自動運転バスが完全に無人化された際の、乗客の年齢に応じた速度の抑制や事故発生時の保険対応を想定しております。

【資料2】 広域幹線検討状況について

意見内容
・ICカードの導入について、乗客の決済方法の多様化に対応しての電子決済（キャッシュレス化）の導入だと思えます。乗客の利便性を考慮するのであれば、多種のカード対応が必要ではないかと思えます。

【資料3】 令和元年度再編効果アンケート調査について

意見内容
・中央前橋駅経由県庁方面のバス路線の新設を、早期にすすめていただきたい。

【資料4】 城南地区地域内交通について

意見内容
・実証実験・プレ運行の結果では、検証するまでのデータが十分に得られていないとのこと。 本運行には、しっかりとデータを収集し検討が必要だと思えます。
・城南地区内地域内交通について、平成30年度の実証実験時よりもプレ運行時の方が利用者数が激減しており、本格運行の運行形態を決定するにあたって、コロナウイルス感染拡大の影響を考慮した上で、減少理由を詳細に検討すべきである。 (プレ運行時の1日あたりの輸送人員が、実証実験時の1/10以下であるのは、コロナウイルス以外に何らかの問題があると捉えるべきではないか。今後、本格運行をバス停方式ありきで進める場合であっても、利用者から意見聴取し利便性を向上させるなど、利用者増につながる運行方法を検討すべきである。)

【資料5】令和元年度前橋版MaaS実証実験結果について

意見内容
・料金の精算方法の検討も必要と思います

【資料6】今度の進め方について

意見内容
・等間隔で利用しやすいダイヤ設定は、各バス事業者と調整を図れば実現できるものであり、独占禁止法の適用除外による乗合バス事業者の共同経営の導入ありきで進める必要はないと思われる。

【その他】

意見内容
・全てに置いて今後各地域によりわかりやすく伝えることでこれからの公共交通の在り方を利用者目線の意見が反映されるように地域から吸い上げるべく努力します。
・コロナ期においても（コロナ期であるからこそ）、各計画を遂行してください。
・市内交通事業者（バス、鉄道）は、コロナウイルスの影響で収集が大幅に減少しているようですので、事業者が何らかの公的支援を受けられるよう、ご検討をお願いします。
・そのために、事業者の声を聞いていただければと思います。
・また、コロナ明けにも、安全で安心な公共交通であるよう、検討をお願いします。